

## - 臨床 -

## 患者アンケートにみる予防歯科診療室での定期健康管理の成果

吉岡節子<sup>1</sup>, 佐久間汐子<sup>2</sup>, 宮崎秀夫<sup>3</sup><sup>1</sup>新潟大学医歯学総合病院診療支援部歯科衛生部門<sup>2</sup>新潟大学医歯学総合病院予防歯科診療室<sup>3</sup>新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔健康科学講座予防歯科学分野

## Outcome of professional care in Preventive Dentistry Clinic assessed by administering a questionnaire to the patients

Setsuko Yoshioka<sup>1</sup>, Shihoko Sakuma<sup>2</sup>, Hideo Miyazaki<sup>3</sup><sup>1</sup>Dental Hygienist Division, Department of Clinical Technology, Niigata University Medical and Dental Hospital<sup>2</sup>Preventive Dentistry Clinic, Department of Oral Health Control, Niigata University Medical and Dental Hospital<sup>3</sup>Division of Preventive Dentistry, Department of Oral Health Science, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata University

平成 20 年 3 月 24 日受付 3 月 31 日受理

Key words : 歯周疾患 ( Periodontal disease ), プロフェッショナル・ケア ( Professional Care ), セルフケア ( Self Care ), 歯牙喪失 ( Tooth loss ), 質問紙調査 ( Questionnaire )

## Abstract

The purpose of the survey is to assess the oral health attitude of 642 patients who regularly receive professional care for periodontal health control in the Preventive Dentistry Clinic, and also to evaluate the effectiveness of periodontal care. A questionnaire survey was carried out between July 1st and December 27, 2002. More than 75% of the subjects were older than 50 years of age and 60% continued regular visits for 10+ years. The questionnaire results indicated that about 50% of the subjects had a first visit on their own choice and 89% continued visiting clinic in order to maintain or improve their oral health. They wanted to feel their oral cavities refreshed and teeth cleaned after obtaining professional care. They realized that oral health instruction and professional care made behavioral changes in them toward increasing oral health interests and using dental floss and interdental brush. 80+ % hoped to continue receiving periodontal health care regularly. Subjects aged 60+ years had 3.95 missing teeth in average. While undergoing periodontal health control, 172 persons, who were all 40+ years of age, experienced tooth extraction. Logistic regression analysis showed that "having lost teeth at first visit" was variable attributed to additional tooth loss while undergoing periodontal control. In conclusion, higher motivation for health, satisfaction after care and self-confidence could be considered as factors that helped to continue their regular visits, and analytic results suggested that professional care in addition to improving their self-care might contribute to decrease the risk for tooth loss.

## 抄録

予防歯科診療室の定期受診者の意識および態度を把握するために、平成 14 年 7 月～12 月の受診者 642 名を対象に自己記入式のアンケートを行った。また、管理期間中の歯牙喪失を指標として定期管理の効果を評価した。

対象者の年齢構成は 75%以上が 50 歳以上で、平均管理期間は 13.8 (SD ; 9.5) 年、10 年以上の継続者が 60%以上であった。アンケートから、対象者の半数が自らの意思で初受診し、89%が歯・歯肉の健康の保持増進のために受診することが示唆された。処置を受けた後は「爽快感、きれいな歯」など良好な感触を得ており、定期受診後は「口への関心の高まり」、「フロス、歯間ブラシの使用」が認識されていた。同年代と比べて口腔の状態は「悪い方だ」との回答は 13%と低かった。そして、定期受診は 8 割以上が「是非続けたい」と回答した。対象者の平均喪失歯数は、60 歳代 3.6 本、70 歳代 5.4 本、80 歳代 6.9 本であった。管理期間中の抜歯経験者は 172 名で全て 40 歳以上であった。

歯の喪失リスクに関して、初受診時の抜歯の既往が有意な説明変数であった。

定期受診の背景には、対象者の健康保持に対するモチベーションの高さとともに、受診後の満足感や健康状態に対する自信が推察された。長期間の定期管理は、セルフケアの充実と相まって歯の喪失リスク軽減に寄与していることが示唆された。

## 【緒 言】

成人期の歯周疾患の予防には、セルフケアとプロフェッショナル・ケアの連携が必要である。しかし、このような考えは、未だ社会に浸透しているとは言い難い。そこで、新潟大学医歯学総合病院予防歯科診療室でブラッシング指導など歯科保健指導、および、歯石除去、専門的機械的歯面清掃（PMTC）などの歯周疾患予防処置を定期的に受診されている患者様の定期受診についての考えおよび態度について把握するためにアンケート調査を実施した。また、管理期間中の歯の喪失を指標として定期管理の成果を評価した。以上の結果について報告する。

## 【対象および方法】

予防歯科診療室の歯周疾患定期予防管理を平成 14 年 7 月～12 月に受診された患者様を対象に自己記入式のアンケートを実施した。アンケートの質問項目は、当診療室初受診の理由 定期管理の受診理由 定期管理受診後の自覚的变化 処置後の感想 口腔の健康状態に関する同年代との主観的比較 管理期間中の抜歯経験 今後の継続に対する意向 歯磨き行動の変化 歯垢染め出し検査に対する感想、以上の 9 項目である。アンケートの記入は、当日の診療終了後に依頼した。回答は、期間中のすべての受診者から得られた。更に、当診療室の診療録より性別、初診年月、調査時点の年齢および来院回数、受診間隔、そして、初診時および調査時点の喪失歯数を受診者の情報として得た。

解析対象者は 642 名（男性 212 名、女性 430 名）で、調査期間中の定期受診案内葉書の送付者の 90% に相当する。また、定期管理の歯周疾患予防に対する有効性を評価するために、年齢群（10 歳刻み）別に調査時の平均喪失歯数、管理期間中の喪失歯の有無および平均喪失歯数を算出した。また、40 歳以上を対象に、期間中の喪失歯数および喪失歯の有無をそれぞれ目的変数に、性別、調査時の年齢群、受診間隔、管理期間、初受診時の年齢群、初受診時における喪失歯の有無を説明変数に重回帰分析、ロジスティック回帰分析を行った。

## 【結 果】

### 1) 調査対象者の概容

対象者の調査時の年齢構成は、50 歳代以上が 75% 以上を占め、同初受診時の年齢は 30 歳代から 50 歳代が 68% を占めた。対象者の平均管理期間は 13.8 (SD ; 9.5) 年であるが、30 年以上定期管理を受けている人が 32 名、20～29 年が 168 名、10～19 年が 188 名で、10 年以上の継続受診者が 60% を超える。

### 2) アンケート

各質問の集計結果は以下のとおりである。質問 1：初受診の理由については、「自分自身の希望、家族や知人の勧め」という自らの意思で受診した人が 56% で、「他科からの紹介」の 38.5% を超えていた（図 1）。質問 2：定期受診の理由については「歯・歯肉の健康を保持、増進したい」が 89% で最も多かった（図 2）。また、定期受診の間隔については、各受診間隔（3 ヶ月以下・4 ヶ月・6 ヶ月・1 年の 4 タイプ）で 85% 以上の人々が「丁度良い」と回答しており、「短すぎる」が 25 名、「長す

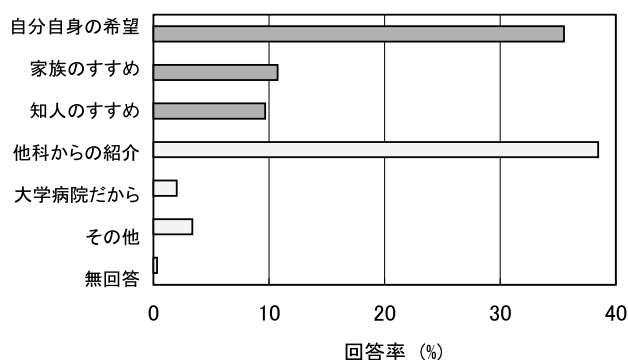


図 1. 初めて受診された時の理由をお聞かせ下さい。

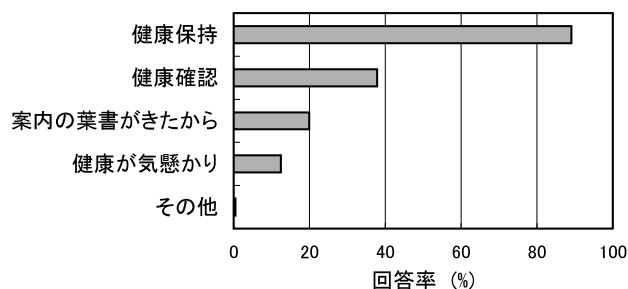


図 2. 定期的に受診される理由をお聞かせ下さい。  
(複数回答)